



篠栗中 学校だより 4月号

校訓 「智」 「想」 「誇」

令和6年4月20日
篠栗町立篠栗中学校
校長 早川 昌吾
生徒数 627名
1年生 192名
2年生 226名
3年生 209名

令和6年度、新しい年度の始まりです。めざす姿は『自律』です

第69回入学式が4月10日(水)に行われ、192名に新生を迎え、全校生徒総数627名、さらに令和6年度の人事異動で、新たに20名の先生を迎え、篠栗中学校の教育活動が始まりました。



始業式、入学式で生徒の皆さんに伝えたことは、篠中での3年間で目指してほしい姿です。それは、「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる人間」つまり『自律できる人間』をめざしてほしいということです。

篠栗中学校では、昨年から「つながる・ささえる・かなえる力(社会の形成者としての見方・考え方)」に重点を絞って取り組んできました。それを本年度も継続させながら、生徒の皆さんが今後活躍する実社会においてたくましくかつしなやかに生きていくために、また、社会の形成者としての見方・考え方が身についた姿として、めざす姿『自律』を挙げさせてもらいました。

「自律できる」ということは、自分自身をコントロールすることができる、ということですが、そのためには、「自己選択」「自己決定」が伴います。本年度の篠栗中では、生徒に「自己決定」してもらおう場面をできるだけ多く仕組んでいきたいと考えています。



自分で決める、ということ、責任を伴います。しかし、誰かから与えられることよりも自分で決めたことのほうがやる気も出ますし、成功した際の喜びや自信にもつながると思います。

この「自律」という姿をめざすことを、生徒、教師、保護者とで共有し、未来を担う生徒の成長を、共に喜び、共に悩みながら、よりよい関係を創っていきたく願っています。

<令和6年度人事異動に伴う赴任者(氏名/教科/前任校)>

氏名	教科	前任校	氏名	教科	前任校	氏名	教科	前任校
個人情報保護のため見えないようになっています。								

新生の皆さんが、決意を新たに迎えた第69回入学式 192名の新たな仲間を迎え、全員そろって令和6年のスタートです!

4月10日(水)「第69回入学式」を挙行することができました。

校長からは「篠中で身につけてほしい3つの力」を話し、その後、在校生代表の [] さんが新生生に向かって「日本一温かい学校」をめざしていることについて温かく伝えてくれました。それを受けて新生生代表の [] さんが「今、私にできること、私がすべきことを、気づき・考え・実行していきたい」と、誓いの言葉を述べてくれました。

1年生は、GWまで、各種オリエンテーションや体育会への取り組みが始まるなど、忙しい日が続きますが、焦らず、一つ一つ自分のペースで、学校生活に慣れていってください。



※ 裏面に本年度の方針の概要を載せています。

【本年度の重点目標】

協働的な学びを通して、人と関わるよさを実感でき（人間関係）、自己の役割を果たす（社会参画）ことに喜びを感じながら、将来の自己の在り方を展望する（自己実現）ことができる生徒の育成

一人ひとりの自己実現（かなえる）に向けて

自律

自分で考え、よりよく判断し、行動できる人

5つの枠組みにまとめた方策・取組

① 何ができるようになるか

篠中生徒が身につける資質・能力を明確にします

- 3つの資質・能力
「つながる」…人間関係の見方・考え方
「ささえる」…社会参画の見方・考え方
「かなえる」…自己実現の見方・考え方
- 非認知能力
「篠中五箇条」「生徒会活動」を通して
○「自分に関する力」
自己肯定感、自立心、自制心、自信など
○「人と関わる力（社会性）」
協調性、共感する力、思いやりなど



② 何を学ぶか

学びのつながりを生む教育課程の工夫をします

- 目的、ねらい、身につけさせる資質・能力を明確化した特別活動、総合的な学習の時間、道徳科の計画・実践・評価・改善
- キャリア発達を促す、教科および各領域の指導の充実
○ キャリア発達を促す学習目標、学習過程の工夫
○ 計画的な「キャリアパスポート」の活用



⑤ 生徒の発達をどのように支援するか

「人と関わるよさ」を実感させる基盤をつくっていきます

- 計画的な「人間関係づくりプログラム」の充実
- 生徒会活動における「つなぐ取組」の推奨と充実
- 生徒会組織で計画・運営する学校行事の充実
- 人の温かさを実感させる人権教育の充実（互恵関係の醸成）



③ どのように学ぶか

学ぶ意義と楽しさを実感させる授業改善に取り組みます

- 社会や実生活と生徒の思考をつなげる課題設定の工夫（見方・考え方を鍛える）
- 「個別・最適化」された学習の推進
・ICT機器の日常的な活用
- 生徒指導の3機能を活かした授業づくり（自己存在感、共感的人間関係、自己選択・自己決定）



④ 何が身についたか

「指導と評価の一体化」を充実させます

■ 単元目標と評価規準の明確化

評価規準	A	B上	B	B下	C
自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」	自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」	自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」	自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」	自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」	自己に照らして「する、ある、ある、ある、ある」
「する、ある、ある、ある、ある」	「する、ある、ある、ある、ある」	「する、ある、ある、ある、ある」	「する、ある、ある、ある、ある」	「する、ある、ある、ある、ある」	「する、ある、ある、ある、ある」

- 単元、内容のまとまりの中に「評価⇔指導・助言」を計画的に導入する「指導と評価の一体化」を図る



キーワードになる「3つの視点」

つながる 『人間関係形成』

集団の中で、人間関係をよりよいものへと形成しようとする視点

ささえる 『社会参画』

集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする視点

かなえる 『自己実現』

現在及び将来の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会で必要とされる資質・能力を育てていきます。

